

授業科目名	人 間 工 学			担当教員	大貝 知子	
開講年次	1 年後期	セメスター	2		時間数(単位数)	30 (1)
必修選択	選択	授業形態	演習		使用教室	
授業の目的	人間の能力・特性に適合した機械装置や設備環境について学習し、保健医療分野への応用を学ぶ。					
到達目標	患者の健康をサポートする環境作り、また看護ケアの質を向上させる環境作りについて、学生が人間工学の基礎的知識を活用し、多面的に考察することの重要性を理解できる。					
ディプロマポリシーにおける科目の位置づけ	人間工学は、エルゴノミクス（Ergonomics）やヒューマンファクター（Human Factors）とも呼ばれており、私たちの生活の中に定着しており、働きやすい職場や生活しやすい環境を実現し、安全で使いやすい道具や機械をつくることに役立つ実践的な科学技術である。本科目で人々の健康をサポートする環境作り、看護ケアの質を向上させる環境作りの基盤となる人間工学の基礎的知識を学ぶとともに、科学的根拠に基づく思考、主体的かつ自律的な学習の力を培う。					
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力	
		◎		○		
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)		取組時間	担当者
1	人間工学とは	講義	復 習 ・教科書内容の学習 ・人間工学を応用した身近な製品を探す		1時間	大貝
2	看護・介護と人間工学	講義	復 習 ・教科書内容の学習		0.5時間	大貝
3	身体の動き	講義	復 習 ・教科書内容の学習 ・講義内容に関連する動画サイトの閲覧		1.0時間	大貝
4	安全性と人間工学	講義	復 習 ・教科書内容の学習		0.5時間	大貝
5	医療施設空間・介護施設空間と人間工学	講義	復 習 ・講義資料の学習		0.5時間	大貝
6	健康をサポートする環境	講義	復 習 ・ナイチンゲールの覚え書き（部分）読書 ・講義資料の学習		1.5時間	大貝
7	住宅等の福祉環境（1） 日常生活の危険性について	講義	復 習 身近な住空間を授業内容と比較し、内容を理解		0.5時間	大貝
8	住宅等の福祉環境（2） バリアフリー改修などについて	講義	復 習 ・身近な住空間を授業内容と比較し、レポートにまとめる		3.0時間	大貝
9	都市環境におけるユニバーサルデザインの導入	講義	復 習 交通機関施設等日常利用空間を、授業内容と比較し、内容を理解		0.5時間	大貝

10	バリアフリー体験（1） 場所：校内 方法：高齢者体験キット、妊婦キット着用 車椅子を利用し、校内のバリアフリーの状況点検	演習	復習 通常の状態と、高齢者体験、妊婦体験、車椅子体験等の動作の違いを確認する。	0.1時間	大貝
11	バリアフリー体験（1）続き ・グループによる体験まとめの発表 ・冬休み宿題レポートの各自発表	講義	実習レポート作成 体験から、日常で気付けない事を学ぶ。	1.0時間	大貝
12	バリアフリー体験（2） 場所：調理室 方法：妊婦キット着用、耳栓・手袋着用により、細かな作業を行い、日常における高齢者などの不便さを体験。	演習	通常の状態と、高齢者体験、妊婦体験との動作の違いを確認する。 実習レポート作成	0.1時間	大貝
13	バリアフリー体験（2）続き 場所：調理室 ・各自の体験の感想や、バリアフリーやユニバーサルデザインなどの意見交換。	講義	実習レポート発表 ・外部空間におけるバリアフリーやユニバーサルデザインを理解。	0.5時間	大貝
14	バリアフリー体験（3） 場所：学校付近 方法：高齢者体験キット、妊婦キット着用 車椅子を利用し、道路や公演などのバリアフリー点検	演習	実習レポート作成 ・バリアフリー等の内容を体験と照らし、理解する。	1.0時間	大貝
15	バリアフリー体験（3）続き ・グループによる体験のまとめ発表 授業全体のまとめ	講義	レポート作成 各自の住まいのバリアなどをレポートする事で、より深く、日常の危険性や事故の可能性を考察する。	2.0時間	大貝
先行履修科目					
テキスト		小川鑛一 他：看護・介護のための人間工学入門。東京電機大学出版局，2006.			
参考文献		平田雅子：新体系看護学全書 基礎科目 物理学。メカカルフレンド社，2008. 柳澤忠 監修：健康デザイン 健康をサポートする環境づくり。医歯薬出版，2000. 大河原千鶴子 他 編集：ヘルス・ケア・ワークを支える看護の人間工学。医歯薬出版，2002.			
評価方法		定期的な課題レポート（90%）、授業参加度（10%）で総合的に評価する。			